

喫煙が筋層非浸潤性膀胱癌の 再発・進展に与える影響

みつ い よう ぞう あり ち なお こ ひら き み ほ
三 井 要 造 有 地 直 子 平 木 美 穂
やす もと ひろ あき しい な ひろ あき
安 本 博 晃 権 名 浩 昭

キーワード：筋層非浸潤性膀胱癌，再発，進展，喫煙，Brinkman index

要 旨

島根大学医学部泌尿器科で外科的治療をした筋層非浸潤性膀胱癌160例を対象とし、喫煙と術後の再発・進展との関連性をCox比例ハザードモデルにて検討した。喫煙の評価には、Brinkman indexを応用した。

再発に関しては、単変量解析でBrinkman index、腫瘍数、および腫瘍異型度が有意な因子となり、多変量解析でも同様にBrinkman index、腫瘍 grade および腫瘍数の順で、腫瘍の再発に関与した。進展に関しては、単変量解析で随伴性 carcinoma in-situ と腫瘍 grade が有意な因子となり、多変量解析で腫瘍 grade が独立した規定因子となった。一方、Brinkman index と腫瘍の進展の間に有意な関連は無かった。

喫煙は膀胱癌再発における強い危険因子であり、喫煙の危険性を広く周知させることは、腫瘍再発の予防において非常に重要であると考えられる。

緒 言

膀胱癌は泌尿器癌において第2位の罹患率・死亡率を有する癌腫であり、新規膀胱癌症例の7-8割は筋層非浸潤性膀胱癌とされる¹⁾。経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TURBT) は筋層非浸潤性膀胱癌に対する標準的な治療法であるが、しばしば術後再発や浸潤性膀胱癌への進展を経験する。この

様に筋層非浸潤性膀胱癌には様々な悪性度の癌が存在し、多様な臨床経過をたどるため、再発や進展に関与する因子の同定は筋層非浸潤性膀胱癌の予防、治療において非常に有用と考えられる。

喫煙は多くの癌腫において重要な発癌因子の一つであり、全ての癌死の約3割が喫煙に関連している²⁾。喫煙者は非喫煙者に比較して2-4倍膀胱癌の発症リスクを高めるため、喫煙は膀胱癌においても重要な因子と考えられている³⁾。さらに、喫煙は筋層非浸潤性膀胱癌の再発・進展にも強く関連し、そのリスクは喫煙本数と期間に依存する

Yozo MITSUI et al.

島根大学医学部泌尿器科

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1